第 41 回日本受精着床学会総会・学術講演会
O-141
宮城, 2023.7.27-28

SEET 法の有用性の検討

金子眞弓[1]、佐藤学[1,2]、宮本有希[1]、森本義晴[1]
1. 医療法人三慧会　HORAC グランフロント大阪クリニック
2. 医療法人三慧会　IVF なんばクリニック

【目的】
昨年度から開始した体外受精の保険適応において先進医療として SEET 法が認められている。その有用性を調べるために本研究では、SEET 法を併用した単一胚盤胞移植（SET）と、併用しない SBT の臨床成績を後方視的に比較し SEET 法の有用性を調べた。
【方法】
2022 年 6 月から 12 月までに SBT を行った 455 症例を対象とした。受精後、5 日間または 6 日間培養し、培養最終日に Gardner 分類 3BC 以上の胚盤胞培養に用いた培養液をまとめて回収し、-30℃で凍結保存した。本研究では、胚移植の 2、3 日前に SEET 液を子宮内に注入した群を SEET 群（131 症例）、注入せずに SBT した群を BT 群（324 症例）とし臨床成績を比較した。また、目的変数を臨床的妊娠として、説明変数を胚盤胞拡張度、SEET 法の実施有無、TE グレード、子宮内膜厚、移植時の出血有無、妻年齢、胚盤胞凍結 Day としてロジスティック回帰分析を行い、SEET 法を含む妊娠に関係する因子を調べた。
【結果】
SBT での臨床妊娠率は SEET 群 35.9%、BT 群 42.3%と差はなかった。良好胚盤胞の臨床妊娠率も SEET 群 44.9%、BT 群 45.6%と差は無かった。また、ロジスティック回帰分析の結果、TE グレード（OR:1.43、CI:1.04-1.95、P=0.0273）、子宮内膜厚（OR:1.14、CI:1.05-1.23、P=0.00168）が臨床的妊娠と関係がみられ SEET 法の有無は関係が認められなかった。
【考察】
SEET 法と SBT の妊娠成績に差はなく、多変量解析からも SEET 法と妊娠の関係は認められなかった。ただし、移植回数など未検討の項目も残されているため今後の追加検討が必要である。